

北朝鮮観光「Monitor Tour」報告

ERINA経済交流部部長代理 佐藤 尚

きっかけ

今年4月、突然北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）国家観光総局から一通のファックスがERINA宛送付されてきた。その内容は「今年8月から10月、3ヶ月間、Monitor tourを実施します。」というものであった。続けて「参加対象 - 旅行関連会社、団体、その他関心者」とあり、「Monitor tour」は「New course, New destination」として5コース用意されていた。それぞれ、1)平壤 - 開城 - 咸興、2)平壤 - 開城 - 将守山 - 海州 - 砂里院、3)平壤 - 七宝山 - 清津 - 会寧 - 旺載山、4)平壤 - 白頭山 - 恵山、5) SILK ROAD (平壤、開城、妙香山、黄海南北道、南浦の古代朝日 [ちょうにち] 文化関連遺跡)。

今までERINAでは本腰を入れて「観光」に取り組んだ事は無かったが、既存のツアーでは訪問しにくい北朝鮮の地方滞在が可能との認識で、派遣団の組成に尽力した。おりしも新潟産業大学で環日本海地域の観光をテーマに研究を実施されていた梁春香教授は新設の東洋大学国際地域学部観光学科に移籍されていたので、その挨拶も兼ねて東洋大学を訪問した折、北朝鮮側の意向を伝えた。以前から北朝鮮に興味を有していた梁教授が北朝鮮派遣団を計画し、北朝鮮関係者との直接のコンタクトを模索していたところであり、ERINAからの情報は渡りに船であった。即座に派遣団組成を決定し、作業を開始することとなった。参加者の意向、日程調整の上、上記5コースのうち5) SILK ROADコースを变形し、景勝地である妙香山1泊、平壤2泊、北朝鮮内計3泊4日で実施することにした。

一方、観光総局からのファックスは、日本の北朝鮮関係者にも送付されており、ERINA主導で何かテーマを持った上でこの「Monitor tour」の誘いに乗ってはどうかとの要望がいくつか寄せられた。

2000年6月に韓国の金大中大統領が北朝鮮を訪問したが、その具体的成果の1つとして、分断されていた南北朝鮮の鉄道復興プロジェクトが持ち上がった。これに呼応する形でロシア、中国から南北朝鮮縦断鉄道とシベリア鉄道の連結や中国東北地方の鉄道との連結が提示されるようになった。ERINAでは以前よりシベリア鉄道復興に関する調査を実施しており、その成果を世に問うてもきた。ここで、今まで調査が困難であった北朝鮮の鉄道輸送を中心とした輸送関連の視察（調査は困難と考え、あえて「視察」とする）を、提示された「Monitor tour」に組み込めない

かと考え、上記の3)コースを選択し、旅程の変更を先方に打診した。

幸いにも両ツアーとも催行するができ、ERINAとして北朝鮮観光の分野で実質的貢献ができたものと自負している。

観光視察団（第1陣）

- ・参加者数 9名
- ・北京集合、北京解散
- ・北朝鮮訪問日程（中国と北朝鮮の時差は1時間）

8月31日(金) 北京 発 10:30 北方航空655便
大連 着 11:30
大連 発 12:40
平壤 着 14:20
着後大型バスにて妙香山に移動
普賢寺視察
香山ホテル泊

9月1日(土) 午前 国際親善博覧館視察
その後平壤へ移動（大型バス）
午後 平壤市内視察 羊角島ホテル泊

9月2日(日) 終日 平壤市内視察及び関係者との面談

9月3日(月) 午前 平壤市内視察
平壤 発 15:20 北方航空656便
大連 着 15:00
大連 発 15:40
平壤 着 16:40

査証について

北朝鮮と日本は国交が無いため、北朝鮮と国交のある第3国で北朝鮮査証を取得する必要がある。昨年、新潟ウ



写真1 普賢寺

ラジオストック - 平壤のルートでロシアのウラジオストック航空、北朝鮮の高麗航空と乗り継いで北朝鮮を訪問した人によれば、このルートに限り例外的にウラジオストック空港のトランジットルームにて、出張してきた北朝鮮係官によって北朝鮮査証が発給されるとのことである。勿論この発給の場合でも、事前に北朝鮮と書類のやり取りを行わなくてはならない。第1陣は参加者が中国での業務もあったため、北京で査証申請をすることにした。査証に付いては第2陣の経験も交え、この場でまとめて説明する。但し第1陣の場合は団体査証、第2陣の場合は個人査証が発給された。人数の差異によるものが、入出国地点の違いによるものは不明である。

北京の北朝鮮領事館で入国査証を取得する手順

北朝鮮招請機関に北朝鮮到着1ヶ月程前までに査証リストを送付する。リストにはフルネーム(漢字とローマ字で表記)、性別、生年月日、現住所、職業、旅券番号を記載する必要あり。

招聘機関より査証発給OKの旨返事をもらう。

北京の領事館に申請する。

申請に必要なものは、旅券、写真2枚(3cm×5cm程度)、申請用紙(申請時、領事館でもらう)、査証代金(10米ドル)

発給に要する時間は1時間から2時間。北京の北朝鮮領事館のオープン時間は、月、火、水、金、土の09:30~11:30、13:30~17:30、木曜は09:30~11:30のみ、日曜は休み。査証発給には何かしらのトラブルが想定されるので、午前中に申請をするのが良い。問題があれば北朝鮮現地(中国時間より1時間進んでいる)と連絡をとり、同日午後再申請することも可能。

査証はすべてハングルで記載されているため、朝鮮語が不案内な者には詳細の確認ができない。また、項目の表題と記載内容が全く無関係であったりして(第2陣の北朝鮮入国の際には、これが問題となった)、初心者には理解困難な点が多い。経験から学び取った査証受領時の要確認事項は、姓名、生年月日、旅券番号、北朝鮮入国地点名及び出国地点名、領事館員のサイン。

今回は北京で査証を取得したが、中国、ロシア等、当該国訪問に際しても査証の必要な国についてはしるべく査証を取得する必要がある。第1陣、第2陣とも北朝鮮訪問後、再度中国に入国したわけで、中国数次査証の取得が必須であった。余談であるが、第1陣参加者の中に、中国一次査証しか取得していない人がいた。9月3日の平壤出国後、一次査証は既に切れているため、中国入国は原則不可のは

ずであった。しかし、24時間以内の中国滞在で、第3国へ出国する場合は、無査証滞在が認められるのである。中国再入国時、北朝鮮の査証コピー、北京発の航空券の提示で、無査証滞在がOKとなった。但し、このようなやり方を勧めているわけではないので、誤解しないようお願いしたい。

北方航空655便及び656便の入出国手続き

同便は通常の国際線とは異なった手続き体系となっているので、ここに特記する。

北京出国の際、まず通常の国際線と同様に航空会社のカウンターでチェックインする。これで預入荷物は最終目的地まで運ばれる。搭乗券上に「S」(多分Specialの意)と朱書きされる。手続後は「S」セクションを通過しなくてはならない。因みにこのことを知らずに、通常の出国手続き場所で無駄な時間を過ごした事を告白する。同セクションは通常の出国手続き場所の手前数十メートルにある。なお、「S」セクションでは中国国内線と兼用するフライトの国際客及び香港、マカオ路線の航空乗客を扱う。ここでは手荷物検査が実施されるのみで、旅券のチェックは行われない。そのまま搭乗ゲートへ向かう。この搭乗ゲートは国際線側にあり、途中で搭乗券、旅券のチェックがある。機内へは最初に国際線乗客が誘導され、その後国内線利用客が、多分国内線専用ゲートから乗りこんできた。大連到着後は国際、国内客入り混じってバスにて到着ターミナルへ誘導される。ターミナルの中で国内到着客と国際通過客は峻別される。通過客はトランジットルーム内の特設出国カウンターへ案内される。案内される前に通過カードを手渡されるので、再搭乗窓口で回収されるまでなくさないようにする。このカウンターでは旅券・査証のチェックのみ行われる。出国手続きのC(Custom:税関)I(Immigration:入国)Q(Quarantine:検疫)の内Cは北京、Iは大連で実施されたことになる。Qについてはもとより簡略されている。656便での中国入国はこの逆。但し大連にてQ関連の申告書を提示する必要がある。Iも大連。Cは北京で実施。平壤での預入荷物は国際線の荷物受け取りカウンターでピックアップする。

平壤空港入国

2階建ての建物の1階半分が入国関連施設で、1階の残り半分がチェックイン施設となっている。

第1印象は狭い。国際線が週何便もないため、これで十分と思われるが、狭い。到着機から建物まではバス、建物に入るとすぐに入国検査。旅券と査証及び機内で配布された記入済み入国カードを提示する。出国時に出国カードを

記入するが全く同一のフォームである。一人2～3分程度。厳しい検査を危惧していた向きには期待はずれ。その後、税関検査。団体で1枚の税関申告書を提示。ガイドが入国検査、税関検査のイニシアチブを取ってくれるので、聞かれるままに所持金額の概算を口頭で答えると、ガイドが全員の金額を金種別に記入して税関に申告してくれる。携行品は2つの品目に限って検査が厳しい。1つは携帯電話。中朝国境では中国側と、38度線では韓国との通話が容易であるため、出国までポンド（保稅）扱いで税関が預かる。入出国地が異なる場合には、随行ガイドが預かる。2つ目はパソコン。これはポンド扱いとはならないが、機種を細かく申告、場合によってメモリーを全部チェックされる。その他撮影機器類も常識量（一人3台くらいが限度）を越えると持ちこみがうるさい。これ以外は概して検査は緩やかで、2人に1人がトランク等の開封を命ぜられる程度である。余談になるが、現地ガイドの最初の仕事は「怖い国家」というイメージで到着し、まだ顔がこわばっている旅行者に笑みを浮かばせることだとの説明があった。予想に反しての緩やかな入国検査、ガイドの努力もあり、空港を出発する頃には精神状態も落ち着く。

視察概要

妙香山

平壤の北、バスで1時間半ほどの距離にある。標高1,000m台、最高峰の昆慮峰でも1,909mという山岳地帯。登山コースも整備されており2、3日の縦走も可能である。山間に11世紀に建立された普賢寺があり、奈良の名刹を彷彿させる。境内はきれいに掃き清められており、ごみ1つ落ちていない。これは北朝鮮のどの観光スポットにも言えることである。第1陣の訪問は9月上旬であったが、10月ともなれば山は紅葉一色でさぞかし華麗であろうと想像された。奈良と上高地が合わさったような素晴らしい景勝地である。この寺からバスで10分ほどの場所に国際親善博覧



写真2 金日成主席像

館がある。これは2つの大きな建物からなる施設で、急ぎ足で見学したとしても優に3時間はかかる巨大な展示場である。金日成、金正日、両指導者への世界各国からの贈呈品展示館である。金日成主席への贈呈品だけで3万弱。第1陣に参加した中国国籍の人は、国宝級の贈呈品数十点を目の当たりにして驚愕していた。贈呈された物を私物とせず、このような形で展示することは有意義に思えた。

平壤

革命に関連した塔や記念物、国家主導者にかかわる記念物が町のここかしこに建立されている。重要な記念物には献花、最敬礼が求められるので、事前の心構えが必要である。北朝鮮滞在中は現地通貨への両替が必要ないように、現地旅行社が手はずを整えている。自由行動が難しいように団体旅行がセットされており、個人行動を控えさせる意味もあって現地通貨両替ができないのかもしれない。市内には西側スタンダードのホテルがいくつかあるが、ここでの支払いも勿論日本円等の外貨。ホテル内にはカラオケ、カジノがあるが、前者は日本人旅行団用、後者は中国人旅行団用と見つけられた。後学のためカラオケを1回利用したが、3,000円と日本並の料金を支払わされた。

東明王陵

平壤の東方25キロにある朝鮮最初の王、東明王の陵。1990年代に建物の再建、整備がなされ、周囲の小高い山とマッチし美しい。平壤市内の個人崇拝的革命モニュメント群が1980年代に建設されたのに対し、これら歴史的記念物は1990年代に整備され始めている。陵はなだらかの丘陵の上にあるが、麓の平原には定陵寺が復元されており、背景の緑をバックにした姿が秀麗であり、奈良の法隆寺を想起させる。復元は各文化財復元機関が分担して実施する。復元瓦の製作、仏画の修復、建物の再現など、どれも丁寧かつ美しい仕事に映った。メガロマニア的な革命記念物はさておき、このような歴史的復元物は十二分に日本人観光客を引きつけるものと思われた。素人目にも奈良の諸寺院と



写真3 定陵寺

の類似は明らかであった。

運輸視察団（第2陣）

・参加者数 7名

・訪問日程

10月11日(木) 成田 発 14:55 中国国際航空926便
北京 着 17:45

10月12日(金) 北京北朝鮮領事館にて査証取得手続き

10月13日(土) 北京 発 17:25 国際列車（第27列車）

10月14日(日) 平壤 着 20:20
高麗ホテル泊

10月15日(月) 午前 平壤視察
平壤 発 14:20 チャーター機
魚郎 着 16:00
マイクロバスにて北上、清津へ
清津観光ホテル泊

10月16日(火) 午前 清津視察及び関係者との面談
午後 マイクロバスにて会寧へ
会寧ホテル泊

10月17日(水) 午前 マイクロバスにて南陽を經由し旺載
山へ 旺載山ホテル泊

10月18日(木) 午前 南陽橋を徒歩で渡り中国図們市へ
マイクロバスにて延吉へ
延吉 発 19:20 中国国際航空
1616便
北京 着 21:20

10月19日(金) 北京 発 09:25 中国国際航空925便
成田 着 13:30

視察概要

10月13日(土)～14日(日)第27列車での移動

17時25分、北京を定刻に出発。中国内経由地は天津、唐山、山海関、錦州、沈陽、本溪、鳳凰城、丹東である。1,142kmを14時間強で走破した。車両編成は機関車を先頭に、丹東までの中国鉄道車両が18両（食堂車含む）最後尾に北朝鮮鉄道の車両2両が連結されていた。中国鉄道車両は多彩な等級であるが、北朝鮮車両は軟座車両（1車両9コンパートメント、1コンパートメントに2段ベットが2つの4人部屋）のみ。北朝鮮の物資不足を反映してか車内は乗下車時、足の踏み場も無い程に荷物で埋まる。通常、車両には石炭給湯機がありお湯はふんだんに利用できるが、今回の車両は給湯機こそあったが、燃料不足か故障かで、お湯は無し。中国国内はほぼ定刻通りの運行だった。中朝国境の町、丹東着は翌14日(日)07:32。車内での出国検

査、中国車両切り離し作業で2時間強停車し、出発は09:35であった。構内には小さいながら瀟洒な免税店があり（1999年9月営業開始）、酒、タバコ、化粧品、電気製品が販売されていた。

10月14日(日)10時45分（北朝鮮時間、中国時間では9時45分）新義州到着

車内での入国検査、北朝鮮国内車両（新義州・平壤間）連結等の作業で3時間停車した。何両連結したかは不明である。駅構内を自由に歩き回れないため、また査証の記載に関して問題が発生したため確認できなかった。先方招聘機関「国家観光総局」からは、査証に北朝鮮出国場所の「南陽」の記載があるかどうか確認するよう十二分に注意されていたので、北京の領事館ではこの点のみを念入りに確認した。しかし、新義州の入国係官の説明によれば入国地点の「新義州」の記載も査証には必要とのこと。北朝鮮出入国管理規則第何条に基づくと説教されたが、罰金を支払う事で解決した。一人10米ドル。通常出入国法令を破るものは多くなく、罰金等の調書は駅構内の別室で行われるべきものと想像されるが、罰金の伝票を事前に用意しており、半分ほど利用されているのが分かった。平壤到着後、国家観光総局に抗議したが笑って取り合ってくれなかった。出入国手続き時に中国人旅行者が官憲に土産を渡すのがよく目撃されたが、入国係官は「お土産」が欲しかったのかもしれない。罰金支払い後はあきらかに陽気且つ温厚になった。30分以上の遅延で14時30分頃出発した。

昼食は北朝鮮側の食堂車で取った。北京から来た2両のすぐ隣の車両が食堂車で、メニューは定食のみで5米ドルなり。北朝鮮側車両から食堂車に現地の人が入ってこないように、銃を装備した官憲が反対側入り口で見張っていた。食堂車では国際車両利用者、官憲と思しき者のみが食事をしていった。

10月14日(日) 新義州 平壤235km、ほとんど単線で全電化済

平均速度30～35キロ程度で進行する。車内の時刻表では途中、定州、安州停車と記載があったが、それ以外にも途中で数十分の臨時停車があり、とてもダイヤ通りに運行しているとは思われなかった。車内灯も点かず、トンネル内では真っ暗闇となる。車窓からは北朝鮮の穀倉地帯「平安北道」の田圃が一望できた。今年は豊作と見うけられた。但し刈り取った稲はそのまま横にして田圃の中にくつつか集めておいておき、自然乾燥のち脱穀をするものと思われた。通常であれば、日本と異なり刈り入れ後は雨も降ら

ず、湿度も低い田圃にほったらかしておいても、乾燥できるのであるが、今回は数日前に豪雨があったとのことで、かなりの田圃が水を落した後も水浸しで、早く脱穀をしないと穂がやられるのではと危惧された。途中の停車駅ではほとんど対向列車を見なかった。定刻から一時間半ほど遅れの20時30分平壤駅に到着した。到着したホームは幅約50m、長さ300mと広がったが、写真撮影は厳禁。また照明もかなり暗かった。

10月14日(日)～15日(月)平壤 高麗ホテル泊

予定していた平壤鉄道大学関係者との面談は取り消しになった。理由は2つ。鉄道省の上層部が許可を出さなかったため。もう1つは、収穫の時期で、大学関係者も農村へ刈り入れの手伝いに行くため、適切に対応できる人がいなかったため。

10月15日(月) 平壤 魚郎、チャーター機。魚郎 清津約60km、マイクロバス。

機材は旧ソ連製の4発プロペラ機IL18。機体後部を壁で仕切り、片側2座席で3列、計12人が同一仕切り内空間に座る。少し前方にも同じく仕切り空間があるようであったが詳細は不明である。軍人、スチュワーデスが陣取っていた。飛行時間1時間40分。到着地の魚郎空港は軍用空港なので、建物等の民間用施設はない。タラップを降りたところにマイクロバスが待機しており、トランク等を滑走路上で受け取り、すぐ移動だ。以後のホテルでは原則としてお湯も水も出なかった。何故か西洋風バスタブに水がはっており、洗面器で吸って利用する。トイレも同じだ。したがって、清津へ行く前に寄り道をして温泉に入る事になった。温泉名は「塩津」(北朝鮮の地図で記載はなかった)。日本占領時代に建設されたと見られる湯治場が随所に見られた。入浴料は1.5米ドルで、極めて薄く、小さいタオルと石鹸がつく。2、3人で一つの貸し切り浴槽、脱衣所を利用す



写真4 魚郎～清津間の海岸

る。一般に熱く、薄めるための水もない！ひとつのグループはあまりの熱さにとうとう入浴を断念した。

10月15日(月)～16日(火) 清津 清津観光ホテル泊

人口65万人。港湾と鉄鋼所の町。清津港は、新しく大きい西港と昔からの東港に分かれており、両港の距離は12km。東港の港長、金チュンホ氏に面談する事ができた。以下面談概略を記す。尚、市内視察は金日正主席の銅像を見たのみである。港湾工業都市ゆえ観光資源はない。

清津港は西と東に分かれている。

両港の埠頭は10、西に6、東に4。

西港の主な取り扱い品目は鉄鉱石、東は軽工業品。

現在西港ではコンテナ埠頭建設を計画。

両港の年間取り扱い貨物量は500万トン。

1989年と1999年を比較すると貨物量は増大している(具体的な数字はなかった)。

日本向け砂・砂利は西港で扱う。

日本港湾とは定期航路がない。

中国大連との間に定期航路があり、主にコークスを輸入。

コンテナターミナルのための敷地を整備しているが、クレーンを設置していない。中国、ロシアの専門家との話し合いを進めているが、具体的な進展はない。

各埠頭313m、2バース、水深11m。

500万トンの内訳は国内3割、海外7割。海外は中国、ロシア、東南アジア関連が多い。

10月16日(火) 清津 会寧118km、マイクロバス、3時間

道路は100%未舗装。道路状況も悪く、とてもコンテナ貨物は運べない。荷崩が危惧される。橋梁も痛みが激しく重量物の輸送は困難とみられる。ただ道路幅だけは2車線分確保してある。道路に平行して走る鉄道は単線で、保線状態は極めて劣悪である。途中一回電気機関車が駅構内で



写真5 吉林市に向かう鉄道(会寧付近)

待機するのを目撃した。架線及びそれを支える電柱がすべてコンクリート製で美しく整備してあることに奇異の念を懐く（新義州・平壤間も然り）。

10月16日(火)～10月17日(水) 会寧 会寧ホテル

人口8万。北朝鮮でも気性が激しい地域とのことで、市内自由散策、写真撮影を控えるようガイドより注意を受けた。金日成主席の最初の妻、金正淑女史の生誕地。女史の銅像があり、生家も記念物として保存されている。ここは中朝国境の通過地点でもあり、中国側は三合となる。

10月17日(水) 会寧 南陽 旺載山82km、マイクロバス

今回の旅程では雨天日が1日も無かった。10月後半にはいると北朝鮮北部は所謂「三寒四温」の気候に入り、この日までは「寒」であったが翌18日に「温」となり、本場の「寒」と「温」の両方を体験した。17日に通過した地域は北西からの冷たく乾いた季節風が強く吹いていた。周辺には「風」のつく地名が多い。旺載山は1933年3月に金日成がゲリラではなく正規軍としての抗日解放軍を組織し、初めて会議を開催した地域として、北朝鮮では革命の聖地と見なされている。旺載山には革命シンボルが構築されていたが、丘の天辺で強風吹きすさび、寒冷のためデジカメのシャッターが全く下りなくなってしまった。但し天気は快晴であった。周辺の図們江岸、中朝国境をドライブしたが、穏やかな晩秋の美しい夕焼けの風景が堪能でき、国境の緊張感など何処を探してもなかった。

10月17日(水)～10月18日(木) 旺載山 旺載山ホテル泊

旺載山地内の高級幹部の宿泊地である。我々が利用したのは、電気式オンドルが付いた部屋が10部屋ある平屋の建物であった。広大な敷地内には、同様の建物が2、3棟ある。建物のある敷地へは一般人の立ち入りは禁止となっている。水、温水は全く出ない。来年以降、ボイラーを設置して温水を給湯できるように改築する予定との説明があった。環境は軽井沢の別荘地を彷彿させ、最高。

10月18日(木) 旺載山 南陽20km。南陽橋を徒歩で渡り中国の図們へ。

南陽橋詰の手前100mほどの所に検問所があるが、厳しさは全然ない。橋に向かって50mほど車で移動したところに、出国検査、税関それぞれの建物がある。旅券、査証は随行ガイドが預かり、我々の出頭無しで出国検査が終了した。税関検査は一人一人トランクをあげチェックされた。我々の検査中、図們側から来た中国人が係官にタバコを渡

すのを目撃した。北朝鮮訪問先用に用意していた余ったお土産を堂々と手渡したところ、その時点で煩雑なチェックは終了となった。検査終了後も兵隊以外の写真撮影は自由。国境の橋、南陽橋（中国名：図們大橋）は長さ約300m、そのうち250m程が北朝鮮、残りが中国である。中国入国手続きは橋の袂の建物内で行われ、最初に旅券・査証チェック、税関チェック、最後に検疫書類の提出の順である。係官は片言の日本語を話し、極めて愛想が良い。

参加者からは「北朝鮮ということで構えてきたが、予想に反して大部分がOK。国境通過もスムーズでつまらなかった。もう少しトラブルを期待したのに」と、かなり無責任な発言もあった。ERINA側の心労、北朝鮮国家観光総局の軍・公安当局との折衝等、知る由もなかったのかも知れない。



写真6 南陽付近（対岸は中国領、図們）

携行品

懐中電灯は必携。エネルギー不足か配電関係の不備か、必ず停電が起きる。ホテル、レストランでは蝋燭を常備している。蝋燭は危険であるし、停電も長いときには数十分続くので、明るさが強くて置けるタイプの登山用のものが重宝する。

お土産。試したわけではないが、現金のチップは原則受け取らないと想像される。男性には「洋もく」が一番。非喫煙者の筆者としては面白くないが、効果は観面である。女性にはチョコレート、化粧品、パンストが良い。企業、機関等の団体宛には洋酒、コーヒー、お茶なども喜ばれるかもしれない。旅行中、コーヒーは平壤のホテルで出されたのみで、紅茶、緑茶は一度も無かった。輸入品、贅沢品であると想像される。

濡ティッシュは地方訪問の場合は必要。お湯、水が全くでない事を想定したほうが良い。ティッシュを利用して、洗顔の代わりにができる。飲み水については、部屋に備え付けの魔法瓶があり、お湯が常備されているので心配な

い。魔法瓶のお湯をタオルに浸して顔を拭く方法もあるが、薄める水がなく往生する。

電気製品。北朝鮮では220ボルトであるが、平壤市内ホテルは110ボルトのコンセントが部屋にあり、コンセントの形状も日本と同一で、日本製電気製品がそのまま使用できる。但し220ボルトコンセントも形状が同一の事があり、使用前に十分確認が必要。地方では220ボルトのみ、コンセントの形状は千差万別。電気製品の使用は難しい。

お金。日本円、米ドルとともに、中国元（補助通貨の「角」紙幣も）が使用できる。但し中国元の換算レートは若干悪い。2回の北朝鮮滞在中、現地通貨を見る機会はとうとうなかった。

北朝鮮観光に関する私見

最後に、両団に参加して北朝鮮各地を訪問した経験を基に、北朝鮮観光に関する私見を述べてみたい。

電力事情：ここかしこで停電が発生し、夜は行動に制限を受ける。少なくともホテルでは自家発電等の設備を設置して対処することが望まれる。

宿泊関連：地方では、部屋の水、お湯が全くでないという状態が普通と想像されるが、改善の必要がある。特に水は人間生活の基本であり、早急な改善が必要である。お湯についても、共同のシャワー室を設置するなど、節約しながら施設を充実することも可能と思われる。

観光地点：国情ゆえ如何ともしがたい点もあるが、一般の旅行者誘致を考えるのであれば、過剰な革命スポット巡りは控えた方が良いと思われる。その都度、献花、最敬礼では一般観光客の呼び込みは難しい。更に献花料として毎回、数ドル程度の米ドルを請求されるが、これも止めたほうが良い。地方の旅行支部が外貨獲得のアルバイトをしていると思われるが、団体パック旅行であれば旅行条件にない追加料金の支払いは契約違反である。

道路事情：これは観光のみにかかわる問題ではないが、極めて劣悪。地方道は100%未舗装ででこぼこなので、

移動にはかなりの覚悟が必要である。重点観光地を選択して、随時、舗装道に改修していくことが求められる。

食事条件：食事は概してバラエティーに富み、工夫が見られる。一般観光団に対しても同じような食事が提供されるとしたら問題はない。辛みと塩分過多は民族料理の特性であり、食品輸送の条件故、クレームをつけることはできない。なお、食事についての事前の情報提供等、木目細かい配慮があればより好ましい。

自由行動：旅程がほぼ団体行動スケジュールで満たされ、自由行動は難しい。自由行動についても、少しずつ緩和する方向で努力願いたい。

ガイド：日本語能力も十分で、観光スポットでの説明も的確である。更に、日本人から聞かれることが多いと想定される質問に対する受け答えも上手である。旅程管理、集合時間の指示も的確で、世界水準でも上級の部類に属する。

移動バス：日本の中古車と思われる大型、小型、マイクロバスが使用されている。平壤やその近郊では、ほぼ完全に舗装されているなど道路事情も良く、どのような車種でも移動に問題はない。一方、地方訪問の場合は、道路事情により大型バス等の使用は困難と思われる。

公式訪問：公式訪問を現地旅行社に依頼することも可能であるが、観光総局と余り接触が無い機関やより上位に位置すると思われる機関の訪問は困難。日本側依頼者が現地訪問希望機関とコンタクトをとり、折衝を重ねて公式訪問実現に努める必要がある。日本で事前に承諾されていた公式訪問についても、種々の事由で直前に取り消しになることもある。

お詫び

* ERINA REPORT Vol. 42の49～52ページの「ハバロフスク・モスクワ訪問記」の末尾に「朝鮮半島縦断とシベリア鉄道連結」に関する北朝鮮側の意見の報告云々と約束したが、今回は実現しなかったため、報告期日未定の宿題とさせていただきたい。